

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 芸術文化振興事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光文化スポーツ部 文化創造課 文化振興係 電話番号：058-272-1111（内3120）

E-mail : c11146@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 15,587千円 (前年度予算額： 17,319千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財源内訳							
		国庫支出金	分担金負担金	使用料手数料	財産収入	寄附金	その他	県債	一般財源
前年度	17,319	0	0	0	0	0	0	0	17,319
要求額	15,587	0	0	0	0	0	0	0	15,587
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

ふるさと岐阜の未来を支え、心の豊かさを実感できる「誇りあるふるさと」岐阜を目指して本県ならではの特色ある岐阜県文化の発展的継承と新たな文化風土の創造を図るため、岐阜県文芸祭の開催及び第13回「小島信夫記念ぎふ文学賞」（選考、授賞式）

（旧：小島信夫文学賞）の実施による文芸・文学振興に加えて、音楽文化振興事業にて育成した若手音楽家の活躍の場を新たに創出することにより、音楽文化の振興をより強固に進める。

(2) 事業内容

1. 文学振興事業

- ・本県の文芸創作活動の充実を図るため、広く県内外から8分野9部門の作品を募集し、優れた作品を表彰・講評するとともに、作品展示会の開催、作品集への掲載を行う。
- ・第13回「小島信夫記念ぎふ文学賞」（令和6年10月～令和7年7月募集、令和7年8月～選考、令和8年8月授賞式）を開催する。

2. 音楽文化振興事業

若手音楽家の人材育成や世界を目指す機会の創出等を目的に、ぎふ・リスト音楽院マスタークラス（マスター・コンサート、短期集中個人レッスン、留学選考会）を開催する。

(3) 県負担・補助率の考え方

本県の文化振興を図る重要な事業であり、全額県負担とする。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	7,087	文学振興事業
補助金	8,500	音楽文化振興事業
合計	15,587	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創成総合戦略による位置づけ
 - 3 地域にあふれる魅力と活力づくり
 - ① 「清流の国ぎふ」文化・芸術の創造・伝承

(2) 事業主体及びその妥当性

本補助金を受けて (公財) 岐阜県教育文化財団が事業を実施する。
財団は、人材の養成と県民文化・地域文化の創造・発展ならびに芸術文化・伝統文化・生活文化等の保存・継承を目的として活動しており、事業主体として妥当である。

県単独補助金事業評価調書

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	芸術文化振興事業費補助金
補助事業者（団体）	（公財）岐阜県教育文化財団 （理由）財団は、人材の養成や県民文化・地域文化の創造・発展ならびに芸術文化・伝統文化・生活文化等の保存・継承を目的として活動しており、事業主体として妥当である。
補助事業の概要	（目的）県内文化の振興 （内容）各団体による文化振興事業への支援等を行う
補助率・補助単価等	その他（全額県負担） （内容）県10／10 （理由）県の文化振興事業として実施するものであり、全額県負担とする。
補助効果	事業によって県文化の発展・継続が見込める
終期の設定	令和9年度 （理由）「清流の国ぎふ」創生総合戦略の終期であるため。

(事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか

文化芸術活動に参加する県民の増加、新たな文化の創造及び地域の伝統文化等の継承を図ることにより、自律的な文化活動を確立させる。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (H14)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R9)	達成率	
						実績	目標
岐阜県文芸祭応募件数	3,455		14,000	14,000	14,000		-%
小島信夫記念ぎふ文学賞応募件数	0	108	100	(募集開始年)	100		108%
リスト音楽院マスターコース留学選考会合格者数	0	4	15	15	15		26%

補助金交付実績 (単位：千円)	R4年度	R5年度	R6年度
①交付実績	4,390	4,255	588
②交付実績	7,325	10,994	7,815

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	第12回小島信夫文学賞：応募作品数35編 第31回岐阜県文芸祭：応募点数12,765点 新型コロナウイルスにより音楽振興事業の一部が中止となつたが、若手音楽家の育成を図ったコンサートを開催。 指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和5年度	第32回岐阜県文芸祭：応募点数13,750点 ぎふ・リスト音楽院マスターコース：受講者数を上回る募集がある等需要も高く、若手音楽家の育成を図ったコンサートも開催するなど、若手音楽家の人材育成として一定の役割を果たしている。 指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和6年度	第13回小島信夫文学賞：応募作品数108編 ぎふ・リスト音楽院マスターコース：受講者数を上回る募集がある等需要も高く、若手音楽家の人材育成として一定の役割を果たしている。 指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	県内の文学・音楽文化の振興に繋げるため、事業の必要性が高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり（単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり） 2：期待どおりの成果あり（単年度目標100%達成） 1：期待どおりの成果が得られていない（単年度目標50～100%） 0：ほとんど成果が得られていない（単年度目標50%未満）	
(評価) 2	県民の自主的な文学・音楽文化活動を継続的に支援することで、多くの県内文化活動の継続・促進に繋がる。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	各事業において事業の予算、実施方法、今後の方向性等について検討し、業務の効率化を図っている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 少子高齢化による応募者数・受講者数の減少が予測される。 広く広報を行いながら、継続して支援活動を行うことで文化活動の継続・促進に繋げる。
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 継続的に事業を実施していることにより、文化活動のすそ野が徐々に広がる等、効果が認められる事業であるため、継続が妥当と思われる。 文学・音楽文化活動を行う人材育成を強化するとともに、活躍の場を創出する必要がある。
--